

## 第2回防災道の駅やちよ整備検討会 会議録

会議名 第2回防災道の駅やちよ整備検討会  
開催日時 令和3年12月23日(木) 午前10時00分～午前11時37分  
開催会場 八千代市役所 旧館4階 第2委員会室  
議 題 (1) 第1回防災道の駅やちよ整備検討会について  
(2) 防災道の駅やちよの整備コンセプト・ビジョンについて  
(3) コンセプト・ビジョンを具体化するための考え方について  
(4) その他  
出席者名 宇於崎会長, 小川委員, 石川委員, 出竹委員, 大澤委員, 鈴木委員,  
【民間有識者】 株式会社やちよリーダーファーマーズ 代表取締役 白井 良夫,  
一般社団法人八千代市観光協会 会長 杉山 智基,  
八千代商工会議所 副会頭 飯田 明彦,  
八千代市自主防災組織連絡協議会 会長 佐藤 寛  
【オブザーバー】 千葉国道事務所 松原計画課長,  
千葉県防災政策課 渡辺政策室長,  
千葉県道路計画課 横田副課長  
【事務局】 檜垣危機管理監  
危機管理課 萩原課長, 竹内副主幹, 一色主査補, 寺沢主事  
農政課 余田課長, 周郷副主幹, 三橋主査, 後藤主任主事  
公開又は非公開の別 公開  
傍聴人定員及び傍聴人数 定員6人/傍聴人5人  
所管部課室名 総務部 危機管理課  
047-421-6716

### 1 開会

### 2 会長挨拶

### 3 議事

#### (1) 第1回防災道の駅やちよ整備検討会について

資料1の内容について, 八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

#### (2) 防災道の駅やちよの整備コンセプト・ビジョンについて

資料2-1, 2の内容について, 八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

白 井： 過去に農業交流センターでテナントを誘致したが、国道 16 号からのアクセスの悪さや大型車の進入が困難であることから、皆難色を示している。

ふるさとステーション側は、駐車場不足解消を目指し、拡張整備を進めている。

ふるさとステーションは施設老朽化が課題である。屋根が開閉できる構造となっており、パッキンの劣化による雨漏りが発生している。屋根の改修が必要となるため、その際に併せて太陽光発電も設置し、ある程度の電力は自前で賄いたい。

また、トイレの基数不足も問題である。新設する場合、施設内への設置はスペース的に難しいことから、新たに拡張した駐車場に設置するのも一つの案として考えたい。

コロナ禍でイベントが出来ていないが、収束状況を見つつイベントを再開させて認知度向上に努めたい。とはいえ、これまでも活性化に向けた取り組みを行っているが、何が良いのか分かりかねる。第 5 回で取りまとめる整備計画について、どの程度のボリュームのものを想定しているか。

杉 山： 道の駅やちよはある程度の集客があり成功の部類に入ると思うが、駐車場を含めて全体的に手狭な感じが否めない。

防災道の駅として災害時に特化した施設ではなく、平常時は観光施設として利活用したい。農業交流センターは活用し切れていないが、秘めたポテンシャルがあると思っている。新川の桜並木も一級の観光資源である。

また、水運を用いて平常時は遊覧船、災害時は船を用いた物資の輸送が可能な防災拠点という視点もコンセプトに加えてはどうか。

飯 田： 防災道の駅が防災拠点の要となる一方で、観光資源の中心となると考える。新川は観光資源となり、災害時の水路活用は非常に有効である。

災害時の物資輸送という観点で、新川沿いの遊歩道整備も検討していただきたい。

ニューリバーロードレースマラソンを開催しており、国内では珍しい駅近の会場のためランナーに人気だが、歩道幅が狭く追い抜きが困難である。歩道を拡張することで、フルマラソンができる余地が生まれるほか、災害時に車両を活用した物資輸送が可能となる。

産業振興審議会を開催しているが、農商工連携に観光が加われば更なる産業の活性化が可能である。

佐 藤： 防災道の駅は安心安全が最重要。国道 16 号沿いの立地はメリットだが、都内からの直結ではない。昨今改修している SA・PA のように「あそこは遊べる。楽しいところだ」という認知が必要である。それが集客へと繋がり、更には道の駅の発展となる。広い駐車場、きれいなトイレ、野菜だけではない様々な物販、という視点で見ると「やちよ」は他に劣る。

市民から市の指定避難所へのペット同行避難に関する相談が多く寄せられている。そこで、防災道の駅内に休憩スペースを設置するのであれば、休憩スペースの一角に防災に特化した相談コーナーを設置してはどうか。

白井： ふるさとステーションは農産物直売，農業交流センターは農業体験を知ってもらう活動が指定管理の条件である。これらの「農業」という枠を外すことが可能であれば出来ることが更に広がるであろう。過去にドッグランを提案したが，農業とは直接関係ないとの行政の見解から，実現されなかった経緯がある。

資料2-4，5の内容について，八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

会長： 資料2-5に新川，遊歩道，遊び及び観光等も盛り込んで，広がりを持たせてはどうか。農業だけでなく他も取り組むという視点は市でもどこまで認められて支援できるかというのを考えていただきたい。

飯田： より多くの方々に道の駅を認識していただくことが重要であり，その中で充実した防災拠点を整備していきたい。更には「行きたい」と思えるような道の駅を整備してほしい。コンセプトに「楽しめる」という観点も入れてはどうか

佐藤： 「行ってみよう」という意思を持ってもらうことが重要である。品揃えの良いスーパーにはない，道の駅の売りを前面に出す等，特に女性や子どもが行きたくなる施設にしないと今後発展しない。

白井： 防災道の駅を整備するに伴い，農業関係以外の施設を組み込める行政の許可をいただければ様々なことを実現していきたい。

杉山： コンセプトにSDGsを追加するのはどうか。

飯田： 今回の整備計画を道の駅単体で見るのではなく，新川全体を見渡して全体の整備の中の重要拠点の一つとして道の駅があるというコンセプトが一番望ましいのではないか。新川は市民にとっての憩いの場であり観光の場でもある。是非検討していただきたい。

杉山観光協会会長は30年程前に漫画冊子「新川ものがたり」を作り，地域の有志で日本大学教授の論文を勉強した。

会長： 新川が重要なことは理解したが，検討範囲に含めることができるかどうかは事務局で検討されたい。

コンセプトは，例えば「行ってみよう，道の駅」－農と遊びと防災と－といった感じにしてSDGsを加えてみるのはどうか。あくまでもアイデアの一つであるため，皆さんの御意見を伺いたい。今日の議論も踏まえて事務局でも検討されたい。

### (3) コンセプト・ビジョンを具体化するための考え方について

資料3の内容について，八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

- 佐藤： 国道 16 号は災害時に通行止めとなるのか。  
地元の方でない道の駅利用者は、直ぐに帰りたいという思いがあるのでは。  
どこが止まっていてどこが通れるのか、という情報を発信すべきである。
- 国 計画課： 緊急輸送道路なので、通行止めにならないよう対応を図ることになる。  
災害時は物資輸送等の緊急輸送も行っているの、平常時と異なる交通状況  
で直ぐに帰宅できるのかというのはあるが、国交省では災害時の通行止め状況  
をマップで公開しているので情報発信のツールになると考える。
- 飯 田： 人の移動、物資の輸送という観点から考えて、国道と新川が交差している箇所  
というのは重要である。新川遊歩道の整備と水運というのは非常に有効な人の  
移動手段、ないしは物資輸送手段となり得る。

#### (4) その他

資料 4 の内容について、八千代市 檜垣危機管理監より説明がされた。

- 佐藤： 道の駅で被災した方の面倒は誰がみるのか。道の駅では面倒みきれないので  
は。
- 白 井： スタッフの人員的に非常に困難である。
- 会 長： 以前、研究の関係で指定管理者へアンケートを実施したことがあるが、大半が  
対応方針を定めていない。従業員も自身の家族があるので難しい面もあると思  
われる。  
また、確認したいのだが、「整備の基準となる使用人数の算出」の復旧活動部  
隊についてはこの想定で良いのか。
- 県防災政策課： 県では復旧活動部隊については警察を想定している。最大限の想定をしてい  
ただくのはありがたいが、作業期間を考えると、まずは警察の受入れを想定した  
方が良いのではないか。
- 会 長： 本日の議論を踏まえ資料の追記修正が必要なところは事務局で対応を行うこ  
と。
- 市危機管理課長： 次回検討会の日程は、令和 4 年 1 月 19 日（水）午前 10 時 00 分から八千代  
市役所旧館 4 階第 2 委員会室での開催となる。